

参考資料 用語集

行	No.	用語	解説
あ行	1	eGFR	血清クレアチニン値と年齢・性別からGFRを推算したもの。GFRは腎臓の中にある毛細血管の集合体である「糸球体」が1分間にどれくらいの血液を濾過して尿を作れるかを示す値であり、GFRが1分間に60ml未満の状態または尿たんぱくが3か月以上続くとCKD（慢性腎臓病：腎機能が慢性的に低下し、尿たんぱくが継続して出る状態）と診断される。
	2	医療費の3要素	医療費の比較には、医療費総額を被保険者数で割った1人当たり医療費を用いる。一人当たり医療費は以下の3つの要素に分解でき、これを医療費の3要素という。 受診率：被保険者千人当たりのレセプト件数 1件当たり日数：受診した日数/レセプト件数 一日当たり医療費：総医療費/受診した日数
	3	HDL-C	余分なコレステロールを回収して動脈硬化を抑える、善玉コレステロール。
	4	ALT	アミノ酸をつくり出す酵素で大部分が肝細胞に含まれている。肝臓の細胞が障害を受けるとALTが血液中に流れ出し血中濃度が上がるため、ALTの数値が高い場合は、肝臓の病気が疑われる。
	5	MVMヘルスケア事業	Myscopeで生活習慣病発症リスクを分析し、VitalityとMystar対象者に振分け、申込があった者に対し、実施をする事業 ・ Vitality：ウォーキングなどの運動をすることによりポイントを貯め、目標ポイントを達成すると特典を獲得できる ・ Mystar：ウェアラブル端末等を活用し、日々の生活習慣を把握した上で、医療専門職が対象者であった保健指導を行う
	6	LDL-C	肝臓で作られたコレステロールを全身へ運ぶ役割を担っており、増えすぎると動脈硬化を起こして心筋梗塞や脳梗塞を発症させる、悪玉コレステロール。
か行	7	拡張期血圧	血圧は一般的には動脈内部の圧力のことを指し、心臓の収縮に伴って大きく変動する。最小となる血圧は心臓が拡張したときの血圧で拡張期血圧と呼ばれる。
	8	共通指標	県が地域の実情に応じて県内統一で設定した指標。域内保険者において同じ指標で経年的にモニタリングできるようになるほか、他の保険者と比較や、自保険者の客観的な状況を把握することができるよう、国が都道府県に定めるよう示したもの。
	9	虚血性心疾患	虚血性心疾患には、狭心症や心筋梗塞がある。狭心症は動脈硬化などによって心臓の血管（冠動脈）が狭くなり、血液の流れが悪くなった状態。一方、心筋梗塞は、動脈硬化によって心臓の血管に血栓（血液の固まり）ができて血管が詰まり、血液が流れなくなって心筋の細胞が壊れてしまう病気。
	10	空腹時血糖	血糖値は、血液中に含まれるブドウ糖（グルコース）の濃度のことで、食前食後で変動する。空腹時血糖は食後10時間以上経過した時点での血糖値。
	11	KDBシステム	国保連合会が保険者の委託を受けて行う各種業務を通じて管理する「特定健診・特定保健指導」「医療（後期高齢者医療含む）」「介護保険」等の情報を活用し、統計情報や「個人の健康に関する情報」を提供し、保険者の効率的かつ効果的な保健事業の実施をサポートすることを目的として構築されたシステム。
	12	血清クレアチニン	たんぱく質が分解・代謝されてできた老廃物。通常は尿とともに排泄されるが、腎機能が低下すると排泄できず血液中に増えていく。
	13	KPI	最終目標到達までの各プロセスにおける達成度を示す指標。
	14	健康寿命	世界保健機関（WHO）が提唱した新しい指標で、平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間。
	15	後期高齢者医療制度	公的医療保険制度の1つで、75歳以上の人、そして65歳から74歳までで一定の障害の状態にあると後期高齢者医療広域連合から認定を受けた人が加入する医療保険。
	16	高血圧症	高血圧は、血圧が高いという病態。高血圧症とは、繰り返し測っても血圧が正常より高い場合をいう。
	17	後発医薬品 （ジェネリック医薬品）	先発医薬品の特許期間終了後に、先発医薬品と品質・有効性・安全性が同等であるものとして厚生労働大臣が承認を行っているもの。
	18	高齢化率	全人口に占める65歳以上人口の割合。
さ行	19	脂質異常症	中性脂肪やコレステロールなどの脂質代謝に異常をきたした状態。

行	No.	用語	解説
	20	疾病分類	世界保健機関（WHO）により公表されている「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」（略称、国際疾病分類：ICD）に準じて定めたものであり、社会保険の分野で疾病統計を作成する際の統一の基準として、広く用いられているもの。
	21	収縮期血圧	血圧は一般的には動脈内部の圧力のことを指し、心臓の収縮に伴って大きく変動する。最大となる血圧は心臓が収縮したときの血圧で収縮期血圧と呼ばれる。
	22	受診勧奨対象者	特定健診受診者のうち、医療機関の受診を促す基準として設定されている受診勧奨判定値を超える者。
	23	人工透析	機能が著しく低下した腎臓に代わり、機械で老廃物を取り除くこと。一般的に行われている「血液透析」は、患者の腕の血管から血液を取り出し、老廃物を除去する。
	24	腎不全	腎臓の中にある毛細血管の集合体で、血液を濾過する「糸球体」の網の目が詰まり、腎臓の機能が落ち、老廃物を十分排泄できなくなる状態。
	25	診療報酬明細書（レセプト）	病院などが患者に対して治療を行った際、費用（医療費）を保険者に請求するとき使用する書類のこと。病院などは受診した患者ごとに毎月1枚作成する。
	26	生活習慣病	食事や運動・喫煙・飲酒・ストレスなどの生活習慣が原因で起こる疾患の総称。重篤な疾患の要因となる。日本人の3大死因であるがん・脳血管疾患・心疾患、更に脳血管疾患や心疾患の危険因子となる動脈硬化症・糖尿病・高血圧症・脂質異常症などはいずれも生活習慣病であるとされている。
	27	積極的支援	腹囲とBMIから、内臓脂肪蓄積のリスクありと判定された者のうち、血圧高値・脂質異常・血糖高値・喫煙ありの追加リスクに2又は3以上該当した者に対して実施する特定保健指導。65歳以上75歳未満の者については「積極的支援」の対象となった場合でも「動機付け支援」とする。
	28	その他の悪性新生物	舌癌、食道癌、小腸癌、十二指腸癌、空腸癌、回腸癌、肛門癌、肛門管癌、肛門縁癌、肛門皮膚癌、肛門周囲皮膚癌、肛門直腸移行部癌、胆のう癌、胆管癌※、総胆管癌、ファーター乳頭膨大部癌、声門上部癌、声門下部癌、胸腺の悪性新生物＜腫瘍＞、悪性黒色腫、中皮腫（胸膜中皮腫）、カボジ肉腫、腹膜の悪性新生物、外陰部癌、卵巣癌、絨毛癌、絨毛上皮腫、甲状腺癌、前立腺癌、陰茎癌、精巣＜睾丸＞の悪性新生物＜腫瘍＞、膀胱癌、眼の悪性新生物＜腫瘍＞、脳の悪性新生物＜腫瘍＞ ※：肝内胆管癌、胆管細胞癌は除く
	29	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	化膿性関節炎、ライター病、趾四肢の後天性変形、外反母趾、膝蓋骨の障害、膝内障、その他の関節内障、関節拘縮、関節強直、その他の関節障害、結節性多発動脈炎、アレルギー性肉芽腫性血管炎、皮膚粘膜リンパ節症候群[川崎病]、過敏性血管炎（グッドパスチャー症候群）、血栓性血小板減少性紫斑病※1、ウェゲ<ジ>ナー肉芽腫、滑膜炎、腱鞘炎、大動脈弓症候群[高安病]、全身性エリテマトーデス＜紅斑性狼瘡＞＜SLE＞、皮膚筋炎、全身性硬化症、強皮症、ばね指、乾燥症候群[シェーグレン症候群]、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、筋炎、感染性筋炎、筋拘縮、廃用性萎縮、筋ストレイン、ガングリオン、滑膜及び腱の特発性断裂※2、アキレス腱炎、その他の軟部組織障害、腱付着部症、テニス肘、骨髄炎※3、骨えくぼ＜死、阻血性骨えくぼ＞死、骨のバジェット＜ページェット＞病、若年性骨軟骨症＜骨端症＞（レッグ・ペルテス病）、大腿骨頭すべり症 ※1：特発性血小板減少性紫斑病は除く、※2：外傷性のものは除く、※3：顎骨髄炎・椎骨骨髄炎は除く
	30	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	血液凝固障害、播種性血管内凝固症候群[脱繊維素症候群]、血友病、高ヘパリン血症、フォンウィルブランド病、紫斑病、アレルギー性紫斑病、血管性紫斑病、ヘノッホ（・シェーンライン）紫斑病、ビタミンK欠乏症による凝固因子欠乏症※1、特発性血小板減少性紫斑病、老人性紫斑病、毛細管ぜい弱症、血管性偽血友病、血小板減少症、無顆粒球症、好中球減少症、白血球増加症、類白血病反応、リンパ球減少症、脾疾患、脾機能低下症、脾機能亢進症、メトヘモグロビン血症、続発性[二次性]赤血球増加症、多血症※2、本態性血小板増加症、低ガンマグロブリン血症、高ガンマグロブリン血症、複合免疫不全、サルコイドーシス、クリオグロブリン血症 ※1：新生児のビタミン欠乏症は除く、※2：真正多血症、新生児多血症は除く
	31	その他の呼吸器系の疾患	インフルエンザウイルスによる肺炎・気管支肺炎、慢性鼻炎、慢性鼻咽喉炎、慢性咽喉炎、鼻ポリープ、鼻たけ＜茸＞、鼻中隔湾曲症、鼻甲介肥厚、慢性扁桃炎、扁桃肥大、アデノイド肥大、扁桃周囲腫瘍、慢性喉頭炎、慢性喉頭気管炎、喉頭筋麻痺、声帯麻痺、声帯ポリープ、喉頭浮腫、喉頭周囲腫瘍、気管支拡張症、珪肺、石綿＜アスベスト＞肺、えん＜嚔＞下性肺炎、成人呼吸窮＜促＞迫症候群＜ARDS＞、肺水腫、好酸球性喘息、肺泡タンパク＜蛋白＞症、特発性肺線維症、肺腫瘍、膿胸、膿気胸、胸水、滲出性胸膜炎、胸膜肥厚、胸膜斑、気胸※、血胸、血気胸、急性呼吸不全 ※：結核性・外傷性は除く

行	No.	用語	解説
	32	その他の消化器系の疾患	顎骨髄炎、唾石症、ガマ腫、アフタ性口内炎、舌炎、地図上舌、食道炎、アカラシア、食道潰瘍、食道破裂、慢性腸炎、アレルギー性胃腸炎、胃腸炎、大腸炎（非感染性と明示のもの）、胃腸潰瘍、胃空腸潰瘍（胃結腸潰瘍、胃結腸びらん）、デイスペプシア、急性胃拡張、肥厚性幽門狭窄※1、胃及び十二指腸のポリープ、急性虫垂炎、そけいく鼠径>ヘルニア、大腿く股>ヘルニア、臍ヘルニア、腹壁ヘルニア、横隔膜ヘルニア、クローン病[限局性腸炎]、潰瘍性大腸炎、虚血性大腸炎、腸間膜アテローム<粥状>硬化症、麻痺性イレウス、腸閉塞、腸重積症、大腸憩室※2、過敏性腸症候群、便秘、機能的下痢、アレルギー性下痢、裂肛、痔瘻、直腸皮膚瘻、肛門潰瘍、直腸潰瘍、肛門ポリープ、直腸ポリープ、肛門脱、直腸脱、腸穿孔（非外傷性）、腹膜炎、腹膜炎癒着、腸性吸収不良、腹腔内出血※3、盲係蹄くブラインドループ>症候群、胃切除後症候群、ダンピング症候群、吐血、メラナ ※1：先天性又は乳児性幽門狭窄は除く、※2：メッケル憩室は除く、※3：外傷性腹腔内出血は除く
	33	その他の心疾患	リウマチ性心疾患、急性リウマチ性心疾患、急性リウマチ性心内膜炎、急性リウマチ性心筋炎、リウマチ性舞蹈病（シデナム舞蹈病）、僧房弁狭窄症、リウマチ性僧帽弁閉鎖不全症、リウマチ性大動脈狭窄、リウマチ性大動脈弁閉鎖不全症、原発性肺高血圧症、三尖弁狭窄症、三尖弁閉鎖不全症、肺性心、急性心内膜炎、感染性心内膜炎、慢性収縮性心内膜炎、大動脈弁狭窄症、心タンポナーデ、大動脈弁閉鎖不全症、肺動脈弁狭窄症、肺動脈弁閉鎖不全症、急性心筋炎、心筋症、拡張型心筋症、閉塞性肥大型心筋症、房室ブロック、左脚ブロック、右脚ブロック、心停止、発作性頻拍、心房細動、不整脈、期外収縮、洞不全症候群、心不全、うっ血性心不全
	34	その他の神経系の疾患	細菌性髄膜炎、脳炎、脊髄炎、脳脊髄炎、ハンチントン病、続発性パーキンソン症候群、ジストニア（ジスキネジア）、本態性振戦、ミオクローヌス、舞蹈病、ピック病、多発性硬化症、視神経脊髄炎、片頭痛、群発頭痛、血管性頭痛、睡眠障害、三叉神経痛、顔面麻痺、胸郭出口症候群、手根管症候群、重症筋無力症、筋ジストロフィー、水頭症※ ※：先天性水頭症は除く
	35	その他の精神及び行動の障害	摂食障害、神経性無食欲症、神経性大食症※、抜毛癖、ウェルニッケ失語、自閉症（幼児自閉症）、幼児精神病、チック障害、吃音症 ※：食欲不振、多食症は除く
	36	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	天疱瘡、類天疱瘡、疱疹状皮膚炎（デューリング病）、乾せんく癬>、類乾せんく癬>、バラ色ひこうく靴糠>疹、扁平苔せんく癬>、じんまく蕁麻疹>疹、多形紅斑、結節性紅斑、日焼け、放射線皮膚炎、円形脱毛症、多毛症、ざ瘡くアクネ>、酒くしゅ>さ、毛包炎、汗疹、白斑、肝斑くしみ>、雀卵斑くそばかす>、べんちく膀胱>腫、うおのめく鶏眼>、エリテマトーデスく紅斑性狼瘡>
	37	その他の眼及び付属器の疾患	麦粒腫（ものもらい）、さん粒腫、眼瞼炎※1、兎眼、眼瞼下垂、涙器の障害（涙腺炎、涙のう炎）※2、眼球突出、強膜炎、角膜炎、角膜潰瘍、糸状角膜炎、角結膜炎、角膜変性、円錐角膜、（急性・慢性）虹彩毛様体炎、前房出血、原田病、無水晶体、水晶体変位、網膜絡膜炎、網膜剥離、網膜裂孔、網膜血管閉塞症、未熟児網膜症、老人性く円板状>黄斑変性、緑内障※3、硝子体出血、変性近視、視神経炎※4、斜視、廃用性弱視、眼精疲労、複視、視野欠損、色盲、夜盲※5、両眼性盲 ※1：眼瞼結膜炎は除く、※2：新生児涙のう炎は除く、※3：先天性緑内障は除く ※4：視神経脊髄炎は除く、※5：ビタミンA欠乏症によるものは除く
た行	38	第1号被保険者	65歳以上の方
	39	第2号被保険者	40歳以上から65歳未満の健保組合、全国健康保険協会、市町村国保などの医療保険加入者
	40	中性脂肪	肉や魚・食用油など食品中の脂質や、体脂肪の大部分を占める物質。単に脂肪とも呼ばれる。
	41	動機付け支援	腹囲とBMIから、内臓脂肪蓄積のリスクありと判定された者のうち、血圧高値・脂質異常・血糖高値・喫煙ありの追加リスクに1又は2つ該当した者に対して実施する特定保健指導。
	42	糖尿病	インスリンの作用不足により高血糖が慢性的に続く病気。網膜症・腎症・神経障害の3大合併症をしばしば伴う。
	43	糖尿病性腎症	糖尿病の合併症の一つ。高血糖状態が継続したことで腎臓の濾過装置である糸球体が障害され、腎機能の著しい低下を認める。一度低下した腎機能の回復は難しく、進行すると人工透析が必要となる場合も多い。
	44	特定健康診査	高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、40歳～74歳の方を対象として、保険者が実施することになっている健診。メタボリックシンドロームの対策が目的の一つとなっているために、俗に「メタボ健診」と言われることもある。

行	No.	用語	解説
	45	特定健康診査等実施計画	保険者が特定健診・特定保健指導の実施に当たって、その規模、加入者の年齢構成、保健事業の体制・人材等のリソース、地域的条件等を考慮し、あらかじめ実施率目標や実施方法等を定めることで、事業を効率的・効果的に実施し、その実施状況の評価ができるよう、作成する計画。
	46	特定保健指導	特定健康診査の結果に基づき、主にメタボリックシンドロームの予防や解消を目的に行われる健康支援のこと。メタボリックシンドロームの人には「積極的支援」、その予備群には「動機付け支援」、それ以外の受診者には「情報提供」が行われる。
な行	47	日本再興戦略	平成25年6月に閣議決定された、規制緩和等によって、民間企業や個人が真の実力を発揮するための方策をまとめたものであり、日本経済を持続的成長に導く道筋を示す戦略。
は行	48	尿酸	細胞内の核に含まれるプリン体が分解される際に生じる老廃物。
	49	脳血管疾患	脳の動脈硬化が進み、脳の血管が詰まったり破れたりする病気の総称。
	50	BMI	体格指数の一つで、肥満度を表す指標として国際的に用いられている。肥満や低体重（やせ）の判定に用いられ、体重（kg）/身長（m ² ）で算出される。
	51	PDCAサイクル	「Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）」という一連のプロセスを繰り返し行うことで、業務の改善や効率化を図る手法の一つ。
	52	標準化死亡比（SMR）	基準死亡率（人口10万対の死者数）を対象地域に当てはめた場合に、計算により求められる期待される死者数と実際に観察された死者数を比較するもの。国の平均を100としており、標準化死亡比が100以上の場合は国の平均より死亡率が高いと判断され、100以下の場合は死亡率が低いと判断される。
	53	腹囲	へその高さで計る腰回りの大きさ。内臓脂肪の蓄積の目安とされ、メタボリックシンドロームを診断する指標の一つ。
	54	平均自立期間	要介護2以上を「不健康」と定義して、平均余命からこの不健康期間を除いたもので、0歳の人が必要介護2の状態になるまでの期間。
	55	平均余命	ある年齢の人々が、その後何年生きられるかの期待値であり、本計画書では0歳での平均余命を示している。
ま行	56	HbA1c	赤血球の中にあるヘモグロビンA（HbA）にグルコース（血糖）が非酵素的に結合したもの。糖尿病の過去1～3か月のコントロール状態の評価を行う上での重要な指標。
	57	未治療者	健診受診者のうち、受診勧奨対象者かつ健診実施から6か月以内に医療機関を受診していない者。
	58	メタボリックシンドローム	内臓肥満に高血圧・高血糖・脂質代謝異常が組み合わさることにより、心臓病や脳卒中などになりやすい病態のこと。単に腹囲が大きいだけでは、メタボリックシンドロームには当てはまらない。
や行	59	有所見者	特定健診受診者のうち、異常の所見のあった者。